

第5学年 音楽科学習指導案

に組 男子19名 女子19名 計38名
指導者 五代香織

1 題材 ふしの感じを生かして

教材 「子もり歌」 日本古謡
「シューベルトの子守歌」 シューベルト作曲 内藤濯 日本語詞（本時主教材）
おはやしのふしをつくろう

2 題材について

(1) 題材の位置とねらい

これまでに子どもたちは、第4学年題材「ふしの感じを生かして」において、旋律の感じに合うように強弱や速度を工夫して演奏したり、異なる楽曲の旋律の感じを聴き比べたりする活動を通して、旋律の感じを生かした表現を工夫することの楽しさを味わってきている。さらに子どもたちは、旋律の感じの違いを生かして歌ったり演奏したりしたいという欲求が高まってきている。

そこで、ここでは、歌詞の内容や旋律の特徴が醸し出す曲想の違いを生かした歌い方を工夫したり、我が国の音楽の特徴を生かして旋律をつくったりする活動を通して、我が国の音楽の旋律の特徴を感じ取って表現したり、即興的に旋律をつくって表現したりする能力を育てるとともに、我が国の音楽の旋律の特徴を生かして表現することに関心を持ち、我が国の音階や旋律の感じを生かした歌い方や演奏の仕方を工夫する能力を高めることをねらいとして、本題材「ふしの感じを生かして」を設定した。

ここでの学習は、短調と長調の違いを感じ取り、短調の旋律の感じと歌詞の内容とを結びつけた歌い方を工夫したり、短調の感じを生かして表現したりする能力を育てる第5学年題材「イ短調のふし」の学習へと発展していくこととなる。

(2) 指導の基本的な立場

旋律の特徴を感じ取って表現したり、即興的に旋律をつくって表現したりする能力を高めるためには、旋律の感じが異なる複数の楽曲を聴き比べる活動を通して、その違いをつかんだり、それぞれの旋律がもつ特徴やそこから醸し出される曲想を感じ取って、それらを生かして表現したりすることが効果的である。特に、この期の子どもたちには、歌詞の内容や曲想を生かしたり、音楽を形づくっている要素やその働きを感じ取ったりしながら、表現を工夫し、思いや意図をもって表現していくことが大切である。

具体的には、まず「子もり歌」を取り上げる。この楽曲は、数ある子守歌の中でも、全国的に歌われてきた代表的なものであり、平易で情感にあふれる歌詞に加え、旋律もリズムもごく自然で美しく、子どもたちにとって親しみやすい。また、陽音階と陰音階による二つの旋律があり、それぞれの旋律から醸し出される曲想の違いを感じ取るのに適している。そこで、二つの旋法の違いによる旋律の特徴を感じ取り、曲想に合った表現を工夫する活動を通して、我が国の音階や旋律の感じを生かして表現する喜びや楽しさを味わえるようにする。

次に「シューベルトの子守歌」を取り上げる。この楽曲は、我が国の「子もり歌」のような伝承音楽ではなく、歌曲としての子守歌である。また、子どもを眠らせる内容の歌詞や、なめらかな旋律と緩やかな速度をもつという共通点や、 $a a' b a'$ という形式や曲の山が明確であるという差異点をもつということから、我が国と諸外国の音楽のよさを感じ取りながら表現を工夫するのに適している。そこで、ここでは、曲想を生かしたり、音楽を形づくっている要素やその働きを感じ取って表現を工夫したりする喜びや楽しさを味わうとともに、我が国と異なる地域の音楽文化への理解を深めることができるようにする。

さらに「おはやしのふしをつくろう」の活動に取り組ませる。ここでは、これまで学習した我が国の音階や旋律の特徴をもとに、我が国の伝統音楽の一つである「おはやし」の旋律をつくって表現できる教材である。そこで、ここでは、単に旋律をつくるのではなく、自分たちの表したいおはやしのイメージを設定し、それに合うように、音楽を形づくっている要素や、演奏の仕方を工夫できるようにする活動を通して、自分たちで思いや意図をもって音楽をつくることの喜びや楽しさを味わえるようにする。

このような学習を通して、子どもたちは、我が国の音階や旋律の感じを生かして表現することのよさを味わい、音楽を形づくっている要素やその働きを感じ取ったりしながら表現することへの関心・意欲を高め、曲想を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって創造的に表現しようとする態度を養うことができる。

(3) 子どもの実態 (調査対象 5年に組 男子19名 女子19名)

本学級の子どもたちの実態は次の通りであった。

①	ふしの感じを生かして歌ったり、演奏したりすることは楽しいですか。
	はい (36名) いいえ (2名)
②	その理由を教えてください。
	【「はい」の理由】 ・ 歌うのが好きだから (20名) ・ 曲に表情が付いて、もっとよくなるから (6名) ・ いろんな感じの歌が歌えるから (5名) ・ 気持ちを伝えられるから (5名) 【「いいえ」の理由】 ・ 歌い方を変えたりするのが難しいから (1名) ・ 音を間違えたりするから (1名)
③	なめらかな感じやはずんだ感じを出すために、どんなことに気を付けて歌いますか。(複数回答)
	【なめらかな感じ】 ・ ゆっくり歌う (11名) ・ 切らずにのぼして歌う (8名) ・ 丁寧に歌う (7名) ・ 息を出すスピードを遅くする (1名) ・ 姿勢や口の開け方に気を付ける (8名) 【はずんだ感じ】 ・ お腹を使って切って歌う (20名) ・ 楽しいことを考える (7名) ・ 速く歌う (3名) ・ 元気よく歌う (3名) ・ リズムにのって歌う (3名) ・ プレスを短くする (1名) ・ 姿勢や口の開け方に気を付ける (1名)
④	「あたらしいえがお」をはずんだ感じ、なめらかな感じに気を付けて歌いましょう。
	・ 旋律の感じに気を付けて正しい音程で歌うことができる (35名) ・ 旋律の感じに気を付けているが、正しい音程で歌えない (3名)
⑤	リコーダーで、4分の4拍子、2小節(8拍分)のふしをつくりましょう。
	・ 拍の流れにのって旋律をつくることのできる (30名) ・ 拍の流れにのれないが、旋律をつくることのできる (8名)

①②から、子どもたちの多くが旋律の感じを生かして表現することへの楽しさを感じており、中には音楽表現の幅が広がるという有用性に気付いている子どもも数名いた。一方、「楽しくない」と答えた子どもたちの理由として、技能面での不安が挙げられた。そこで、旋律の感じを生かして表現することのよさを味わわせながら、表現するための技能についても考えさせながら活動に取り組みさせる必要がある。

③から、旋律の感じを生かして歌うために、歌い方を変えようとする子どもたちが見られるが、速度や強弱のみで変えようとしたりする子どもたちもいた。そこで、旋律の感じを生かすために、速度や強弱のみを変えた範唱を聴かせたり、それらを一緒に歌ってみたりする活動を取り入れて、旋律の感じを生かした歌い方を具体的に考える活動を取り入れる必要がある。

④から、なめらかな感じやはずんだ感じで歌える子どもが多いが、音程が不安定な子どももいた。そこで、少人数による旋律把握の活動や、心情面に配慮しながら教師が隣で一緒に歌ったり、速度を遅くして歌ったりするなどの活動を取り入れる必要がある。

⑤から、子どもたちの多くが拍の流れにのって短い旋律をつくることのできた。拍の流れにのれなかった子どもは、リコーダーの指使いに不安があることが分かった。そこで、旋律をつくる際は、速度やリズムに配慮したり、使う音を限定したりして活動に取り組みさせる必要がある。また、子どもたちがつくった旋律には、終止感のないものも多くあった。そこで、「終わる感じ」「続く感じ」の違いを感じ取る活動を取り入れる必要がある。

(4) 指導上の留意点

以上のことをふまえて、指導に当たっては次のようなことに留意したい。

ア 旋律の感じや曲想を生かして表現することのよさや楽しさを味わえるようにするために、写真や挿絵など、視覚的に訴えるものを準備することにより、楽曲の場面や様子を具体的に想像できるようにする。

イ 旋律の感じや曲想を生かした表現の工夫ができるようにするために、歌詞の内容や楽譜などを基に、表現の工夫を考えられるように、グループでの活動を取り入れるようにする。

ウ 旋律の感じや曲想を生かして表現することができるようにするために、同じ旋律を違った感じで表現し、それを比較するような活動を取り入れるようにする。

3 目 標

- (1) 我が国の音楽の特徴に関心を持ち、旋律の感じや曲想を生かした表現になっているか振り返りながら、進んで活動に取り組むことができる。
- (2) 我が国の音階や旋律の感じを生かした歌い方や演奏の仕方を工夫することができる。
- (3) 我が国の音楽の特徴を感じ取って歌ったり、即興的につくって表現したりすることができる。

4 指導計画 (全5時間)

過 程	時	教 材	主 な 学 習 活 動	教 師 の 具 体 的 な 働 き かけ
課題把握	1	「子もり歌」	ふしの感じに気を付けて歌おう。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子もり歌の曲の感じと曲名、歌詞内容とを結び付けてとらえることができるようにするために、「どうしてそんな感じがする曲なのかな。」と問いかけるようにする。 ○ 2つの子もり歌の旋律の感じの違いを感じ取ることができるようにするために、「それぞれの子もり歌は、どんなときに歌ってあげたいかな。」と問いかけるようにする。 ○ 正しい音程で旋律把握ができるようにするために、速度を遅くしたり、跳躍する旋律の部分を取り出して歌ったりするようにする。 ○ 発表する際は、自分たちの表現への思いや意図を明確にするために、どんなことに気を付けて歌うか発表させてから歌うようにする。
課題追求I			<ul style="list-style-type: none"> ○ 「子もり歌」(陽音階)を聴き、感じたことや気付いたことを話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ なめらかな感じ ・ 終わらない感じ ・ ファとシが使われていない ○ 旋律把握をし、歌詞唱する。 ○ 「子もり歌」(陰音階)を聴き、2つの旋律の感じの違いについて話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 陰音階は、物寂しい感じ ・ どうして違う旋律があるのかな ○ 旋律把握をし、歌詞唱する。 ○ それぞれの旋律の違いを感じ取りながら、歌い方を工夫する。 ○ 相互発表・鑑賞をする。 	
課題追求II	2 (本時)	「シューベルトの子守歌」	なめらかなふしの感じを生かして歌おう。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 曲に対するイメージを膨らませることができるようにするために、初めは曲名を知らせずに聴かせるようにする。 ○ 曲に対するイメージをもつことができるようにするために、曲の背景や作曲者について補説する。 ○ 曲想や音楽を形づくっている要素を比較して、表現の工夫につなげることができるようにするために、前時の「子もり歌」と比較できるような板書を行う。 ○ イメージと音楽を形づくっている要素とを関連付けるために、範奏を聴く際は、「どんな祭りの感じがするか。」と問いかけるようにする。
課題追求III			<ul style="list-style-type: none"> ○ 「シューベルトの子守歌」を聴き、感じたことや気付いたことを話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ なめらかな感じ ・ ゆっくり ○ 「子もり歌」との共通点、差異点について話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> (共通点) ・ なめらかな旋律 ・ 速度 ・ 眠らせる歌詞 ・ 拍子 (差異点) ・ 終止感 ・ 繰り返し ・ 曲の山が分かりやすい ○ 旋律把握をし、歌詞唱する。 ○ 旋律や曲想に合った表現を工夫する。 ○ 相互発表・鑑賞をする。 	
課題追求III	3・4	「おはやしのふしをつくろう」	イメージに合うようにはやしをつくろう。	<ul style="list-style-type: none"> ○ つくった旋律を再度演奏することができるようにするために、階名など、自分なりの方法で記録できるようなワークシートを準備する。 ○ おはやしの特徴を生かしているかを吟味しながら学習を進めていくことができるようにするために、一人8拍の短い旋律をつくらせ、4人で吟味しながら、つないで一つの旋律にさせる。 ○ 鑑賞する際は、イメージと音楽を形づくっている要素とを結び付けながら聴くことができるようにするために、設定したテーマのイメージを発表させる。
課題解決			<ul style="list-style-type: none"> ○ おはやしの作品例を聴く。 ○ 階名唱し、リコーダーで演奏する。 ○ おはやしの特徴を確かめる。 ○ 表したいイメージと音楽を形づくっている要素とをどのように結び付ければよいか考えながら、おはやしのふしをつくる。 ○ グループ(4人)でどのようにつないでいくかを考えてつなぐ。 	
課題解決	5	「おはやしのふしをつくろう」	つくったおはやしを発表しよう。	<ul style="list-style-type: none"> ○ グループごとにおはやしの発表・鑑賞をする。 ○ 学習のまとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ ふしの感じに合わせて、歌い方や音楽の要素を工夫することができた。 ・ 我が国の音楽の特徴やよさが分かった。
まとめ				

5 本 時 (2 / 5)

(1) 目 標

- ア 我が国や諸外国の音楽の共通点や差異点に関心をもち、進んで活動に取り組むことができる。
- イ 楽曲にこめられた思いや意図を音楽を形づくっている要素と関連付けながら、表現の工夫を工夫することができる。

(2) 本時の展開に当たって

子どもたちが他国の音楽と我が国の音楽との共通点や差異点を基にして表現の工夫ができるようにするために、前時で学習した「子もり歌」と比較しながら「音楽を形づくっている要素」と曲想を関連付けていく活動を取り入れるようにする。

また、曲想や歌詞の内容を基に、表現の工夫をする際は、自分たちの思いや意図を反映しやすいように小グループでの活動を取り入れるようにし、自分たちで主体的に学習を進めていけるような場を設定する。

(3) 実 際

過 程	主 な 学 習 活 動	時間	教師の具体的な働きかけ								
課題把握	1 「シューベルトの子守歌」の範唱を聴き、気付いたことや感じたことを話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> 「眠れ」という歌詞があるから、これも子守り歌かな。 前に学習した「子もり歌」とは雰囲気が違うな。外国の曲かな。 なめらかなふしは似ているな。 2 本時の学習について話し合う。 なめらかなふしの感じを生かして歌おう。	(分) ↑ 10 ↓	<ul style="list-style-type: none"> ○ 楽曲のイメージをふくらませることができるようにするために、曲名を知らせずに聴かせるようにする。 ○ 曲想や楽曲の特徴と、音楽を形づくっている要素とを関連づけることができるようにするために、「○○(要素)なところが、△△(曲想、特徴)な感じがする」というように発表させるようにする。 ○ 外国の楽曲への関心を高め、異文化への理解を深めるために、曲の生まれた国の写真を提示したり、作曲家シューベルトについて紹介する。 ○ 正しい音程で旋律把握ができるようにするために、楽譜を配布したり、難解なリズムの箇所を取り出して練習したりする。 ○ 共通点や差異点を導き出すことができるようにするために、前時の「子もり歌」の特徴を提示し、比較させるようにする。 ○ 主体的に取り組むことができるようにするために、各グループに伴奏入りキーボードや楽譜、歌詞を用意しておく。 ○ 自分たちの思いや意図を共有できるようにするために、楽譜や歌詞は、言葉や線などを書き入れてよいことを伝える。 ○ 発表の際は、自分たちのとらえた思いや意図を、音楽を形づくっている要素と関連させて発表してから歌うようにする。 ○ 異文化への関心を高めるために、我が国の「子もり歌」と、「シューベルトの子守歌」を比較して気付いたことや感じたことを発表させるようにする。 								
課題追求	3 歌詞唱し、旋律把握をする。 4 「子もり歌」との共通点や差異点を基に、表現の工夫について考える。 <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">〔共通点〕</td> <td style="width: 50%;">〔違う点〕</td> </tr> <tr> <td>・ なめらかな旋律</td> <td>・ 曲の山</td> </tr> <tr> <td>・ 寝かせる歌詞</td> <td>・ 繰り返し</td> </tr> <tr> <td>・ 4拍子</td> <td>・ 音階や調</td> </tr> </table> 5 グループごとに表現の工夫をする。 <ol style="list-style-type: none"> 歌にこめられた思いや願いを共有し、歌い方や音楽を特徴付けている要素をどのように工夫するか話し合う。 話し合ったことを基に、練習する。 <ul style="list-style-type: none"> 「こころよき」のところは、赤ちゃんが安心して眠れるように、やわらかい声で歌おう。 「ねむれねむれ」は、やさしくあやしていると思うので、十分音を伸ばして歌おう。 	〔共通点〕	〔違う点〕	・ なめらかな旋律	・ 曲の山	・ 寝かせる歌詞	・ 繰り返し	・ 4拍子	・ 音階や調	↑ 30 ↓	
〔共通点〕	〔違う点〕										
・ なめらかな旋律	・ 曲の山										
・ 寝かせる歌詞	・ 繰り返し										
・ 4拍子	・ 音階や調										
旋律把握											
表現の工夫											
相互発表・鑑賞	4 相互発表・鑑賞をする。 5 学習のまとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> 日本も外国でも、子どもを思う気持ちは同じだな。 日本の音楽は外国と似ているところや違うところがあるんだな。 他の地域の子守り歌も聴いてみたい。 	↑ 5 ↓									
まとめ											